

「実は福井」の技
ものづくりの匠たち

暮らしを彩る立体印刷

どんな形状の携帯電話にも 思いどおりの模様を描く

開発者

株式会社 秀峰

むらおか

村岡 貢治 さん



今や現代人の生活に不可

欠となっている携帯電話。各メーカーは続々と新しい機能やデザインを開発し、個性的なモデルを求める人も多い。そんな中、携帯電話ボディへの装飾で注目を集めるのが、(株)秀峰。独自に開発した曲面印刷技術が武器だ。この技術を活用して、丸みや凹凸のある携帯電話にも複雑な図

柄や写真を印刷できる。

開発した村岡さんは、元銀行員。曲面印刷に挑むきっかけとなったのが、結婚披露宴の引き出物だった。「金盃に招待客の写真を印刷して引き出物にできないか」。

発想は良かったが、どの印刷会社にも話を持ちかけても曲面への直接印刷は不可能だった。それなら自分で印刷しよう

コストや時間がかかり、

大量生産には不向き。やはり、安価で量産を可能にしたい。同時に、高い精度も両立しなくては行けない。

しかし、曲面・球面への印刷実験は困難を極めた。模様が伸びてしまうのだ。さまざまな方法を試し、研究開始から10年、10ミクロン(100分の1ミリ)レベルの精密さで、点や線を

直接、立体物に印刷することに成功した。

同社ではこの技術を使い、複雑な形状であるメガネフレームへの装飾で国内シェアナンバーワンを誇っている。また、携帯電話ボディをはじめ、ボタンや自動車のハンドル、内装パネルなど、用途は多方面

眼鏡枠、ボタン、自動車のハンドル、内装パネルなど、曲面印刷技術は多方面で活躍



軽量化できる。

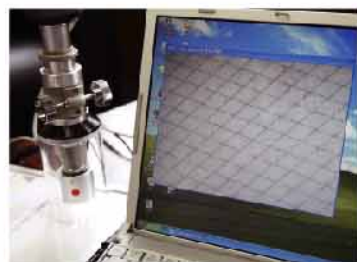
印刷に関する情報収集を怠らない村岡さん。「開発した印刷技術を応用して、常に新しいアイデアを考えています」。物に貼り付けたり埋め込んで使うICタグアンテナ、さらには液晶を印刷した超薄型テレビといった近未来の世界を見据え、挑戦は続く。

近未来の世界見据え 印刷に通電機能付加



携帯電話ボディの装飾はお任せ。パーツを組み合わせたときの模様のズレがない

うと、プレハブの工場を設けて研究を始めた。「素人って恐ろしいですね。あきらめないんだから」と村岡さん。これまで、立体物への印刷は、紙やフィルムを介して写し取る転写方式だった。しかし、この方法では正確な位置に印刷するのが難しい。しかも、サンプルを作るのに



マイクロスコープでしか見えない5ミクロンレベルの線。微細な模様を描ける技術と印刷メッキ技術で平面アンテナを印刷



携帯電話ボディの印刷フロア。企業秘密がたっぷり詰まっている

(株)秀峰

本社/福井市大土呂町2-5-5
設立/1983年8月
資本金/4億3000万円
従業員/80人
事業内容/眼鏡、自動車内装材、ハンドル、携帯電話など
曲面、球面特殊印刷
TEL.0776-39-0800
http://www.shu-hou.co.jp